



八鹿青溪



貫徹 慎独 創造

養父市立八鹿青溪中学校 校報
(令和6年6月10日) 第8号



学校教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」

八鹿青溪中 HP

2年生 トライやる・ウィーク

6月3日(月)から6月7日(金)まで、2年生は「トライやる・ウィーク」でした。生徒たちは下記の事業所に分かれて活動をさせていただき、学び多き期間を過ごすことができました。各事業所の皆様に心より感謝申し上げます。

〈お世話になった事業所〉 ※順不同、敬称略

- ・公立八鹿病院 ・養父市立小佐保育所 ・カフェレストラン ベリッタ
- ・南但馬警察署 養父警察センター ・(有)五光 ファミリーホール
- ・養父市立宿南こども園 ・日光認定こども園 ・(株)谷常製菓
- ・ベーカリー&パリ食堂 マルシェ ・童和こども園 ・たいようこども園
- ・養父市立高柳小学校 ・ゴダイドラッグ 八鹿店 ・八鹿鉄工(株) ・但馬オート(株)
- ・(株)GEO ソリューションズ養父技術所
- ・兵庫県動物愛護センター但馬支所 ・道の駅 ようか但馬蔵
- ・養父市立八鹿小学校 ・養父市学校給食センター ・県立但馬農業高等学校
- ・養父市役所 ・(株)オーシスマップ ・南但消防本部 養父消防署
- ・特別養護老人ホーム妙見荘 デイサービスセンター
- ・養父市立伊佐こども園
- ・国土交通省豊岡河川国道事務所 八鹿国道維持出張所
- ・つるぎが丘公園ようか温水プール&健康支援施設



立志式の様子



【立志式における校長講話骨子】

「『トライやる・ウィーク』は阪神淡路大震災に加えて、平成9年の神戸連続児童殺傷事件の犯人が中学生であったことをきっかけに兵庫県教育委員会が全国に先駆けて創設した事業です。子どもは学校だけではなく、地域で育てていくものであるということ浸透させることや震災復興に尽力する大人の姿を中学生に見せたいということが意図であったものと思います。是非、真剣な気持ちでトライやる・ウィークを過ごしてほしいと思います。」

1年生 わくわくオーケストラ教室

6月4日(火)、1年生が西宮市にある県立芸術文化センターで開催された「わくわくオーケストラ教室」に出かけました。曲目は以下のとおりです。

- ・ヘンデル「水上の音楽」より“アラ・ホーンパイプ”
- ・リムスキー=コルサコフ「スペイン奇想曲」より
- ・スメタナ:交響詩《わが祖国》より“ヴルダヴァ(モルダウ)”
- ・「ふるさと(嵐)」合唱
- ・ヨハン・シュトラウス1世 ラデツキ-行進曲

迫力ある生演奏に対して、生徒からは感動の声があがっていました。



道徳科の授業づくり ～YABU スクールチャレンジ事業～

八鹿青溪中学校では令和5年度より道徳科の授業づくりについての校内研修を進めています。これは養父市教育委員会の「YABU スクールチャレンジ事業」を活用して実施しており、兵庫教育大学から研修講師を招聘したり、他府県(令和5年度:奈良県 令和6年度:大阪府、滋賀県)の道徳教育先進校へ視察に出かけたりしています。

さて、その道徳科の授業ですが、学習指導要領(文部科学省)では以下の事項を扱うこととされています。

A 主として自分自身に関すること

- (1) 自主、自律、自由と責任 (2) 節度、節制 (3) 向上心、個性の伸長 (4) 希望と勇気、克己と強い意志 (5) 真理の探究、創造



B 主として人との関わりに関すること

- (6) 思いやり、感謝 (7) 礼儀 (8) 友情、信頼 (9) 相互理解、寛容

C 主として集団や社会との関わりに関すること

- (10) 遵法精神、公德心 (11) 公正、公平、社会正義 (12) 社会参画、公共の精神 (13) 勤労 (14) 家族愛、家庭生活の充実 (15) よりよい学校生活、集団生活の充実 (16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 (17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 (18) 国際理解、国際貢献

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

- (19) 生命の尊さ (20) 自然愛護 (21) 感動、畏敬の念 (22) よりよく生きる喜び

以上の事項を正式には「内容項目」と呼び、年間35回の授業でそれぞれ1回ないし2回扱います。一般的には読み物資料を用いて授業を展開するのが主流で、主人公に自分自身を投影しながら「内容項目」について生徒に深く考えさせ、クラスメイトとの議論を促します。そして、生徒自身がそれぞれの「内容項目」について自発的にその価値を見出すように教師が働きかけます。そのことを“道徳的価値の自覚”と呼び、それを目標にして教師は研修しています。

いっぽうで、道徳教育はあくまでも家庭が主になって行うものであり、学校はそれを補完する立場であるとも考えます。子どもの人格形成に一番大きな影響を与えているのはまぎれもなく保護者であることを念頭に置いていただき、お示した「内容項目」について、各ご家庭で親子が議論する機会を作ってみるといっても大切なことだと思います。

6月の「草庵先生の教え」

6月は、「学(まな)ぶ者(もの)は、事(こと)を厭(いと)い 労(ろう)を辞(じ)すべからず」(学ぶ者は仕事や働くことを嫌がってはいけな)を合言葉に学校生活を送っています。具体的には、日常の営みである家での手伝いや学校での清掃、当番・係活動などに進んで取り組み、それをけっして嫌がらずに行わなくてはならないという意味です。今のところ、八鹿青溪中学校の生徒はよく出来ていると思っています。

6月 校訓 **貫徹 慎独 創造**
こと いと

学ぶ者は、事を厭い

し

労を辞すべからず

学ぶ者は仕事や働くことを嫌がってはいけな

